

2019年 社長年頭挨拶(要旨)について

山陽特殊製鋼株式会社（社長 樋口眞哉、本社 兵庫県姫路市）は、2019年1月4日（金）に本社講堂にて、2019年始業式を挙行了いたしました。始業式における社長挨拶の内容(要旨)は以下のとおりです。

ご安全に！ そして、明けましておめでとうございます。

今年は、「平成」が終わり、元号が変わる節目の年、当社グループにおいても、まさに変革の年であります。新たなステージに向けて大きな一歩を踏み出し、いかなる状況でも全社が一丸となって発展に向かって進んでいく年にしたいと考えております。

昨年は、自動車・産業機械をはじめ、ほぼ全ての需要業界が好調を維持し、当社もフル生産が続きましたが、原燃料や電極等の諸資材等の価格が上昇し、上半期は営業減益となりました。足元では、中国における自動車販売台数の減少や米中貿易摩擦の影響などにより、市場に若干の陰りが見え始めるとともに、国内においては10月の消費税増税による景気への影響が懸念されるなど、依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

今年は十二支では最後の「亥年」ですが、亥年は、変革や改革を示す年であるといわれています。当社グループにとっては、第10次中期経営計画の仕上げの年であり、歴史的にも大きな転換点を迎える年となることは間違いありません。

当社は、今年の3月に欧州における有数の特殊鋼メーカーであるオバコを完全子会社化する予定ですが、これにより、世界的にも有力な市場の一つである欧州市場において、確固たる足掛かりを確保することになります。子会社化後には、オバコとの一体的事業運営によって、世界トップレベルである高纯净度鋼の製造技術を融合し、さらに営業・物流のネットワークの相互活用を通じてグローバルマーケットにおける競争力を強化していきます。同時に、新日鐵住金（4月から日本製鉄）の子会社となることで、「持続的な成長」のみならず、「中長期的な企業価値の向上」を図るための安定した経営基盤の構築が可能となり、当社・オバコ・日本製鉄の3社連携のシナジー効果実現に向けて取り組んでいきます。

第10次中期経営計画においても将来を見据えた本社工場の大胆な生産構造改革を推し進めているところです。これらの施策と、これまで培ってきた「高品質の特殊鋼づくり」を通じて、当社は、軸受鋼のマーケットで世界ナンバーワンの地位を確立し、豊かな社会の発展に貢献するという役割を担い続けていきます。

私たちを取り巻く環境は大きく変わり続けていますが、グローバル化した現代においては、持続可能な社会の実現ということが世界共通の課題となっており、企業には、この課題解決へ貢献するとともに、自らも成長を図ることが求められています。どのような状況下においても、持続的な成長を果たしていくために、「守るべきものを守り、変えるべきものを変えられる企業」でなければなりません。

当社グループにとって守り続けるべきものは、経営理念「信頼の経営」の実践を通じて、誠実・公正・透明な企業経営を推進し、信頼を積み重ねていくという価値観です。「安全>品質>納期>量>コスト」の優先順位を役員・幹部から新入社員まで当社グループの全員が守り、行動することこそが、「信頼の経営」の実践につながると考えています。

当社グループが、30年後、50年後も「高信頼性鋼の山陽」のブランド力に磨きをかけ、グローバル市場において、持続的成長を遂げることができるよう、グループ一丸となって、共に頑張ってもらいましょう。

皆さんならびにご家族にとっても素晴らしい一年になることを祈念して、年頭の挨拶といたします。

山陽特殊製鋼株式会社

代表取締役社長 樋口 眞哉